

絵本を用いた職業モデル提示が キャリアプランニング能力に与える効果の検証 ～小学校特別活動における事例的研究～

五十嵐 裕 児*・松 澤 健 彦**・榎 原 範 久***
(令和4年1月27日受付；令和4年5月12日受理)

要 旨

本研究では、特別活動で絵本を用いた職業モデルの提示を目標とした授業を開発・実践し、基礎的・汎用的能力の1つである「キャリアプランニング能力」にどのような影響があるのかを検証した。実践内容は、絵本の読み聞かせを行い、その後絵本に関する自作の問いかけを学習者に問いかけた。その結果、次の3つの効果が示された。1つ目は、絵本の読み聞かせ活動によって、学習者は取り扱った職業に関して多くの情報を取得している様子が見られた。また、読み聞かせ活動から取得した情報を基に自分なりに考え、絵本では取り扱ってない情報も取得している姿が表出した。2つ目は、読み聞かせ活動で得た情報を基に、学習者が自分なりに取り扱った職業に必要な資質・能力を考える姿が見られた。また、中には自分で実行しようとしている学習者も見られた。3つ目は、自作のキャリアプランニング能力を測定する質問紙で有意な向上が見られた。以上のことから、学習者が職業に関して幅広い知識を獲得できる可能性があることが示唆され、さらに主体的にキャリアを形成する機会になったことが推察された。よって絵本を使用した職業モデル提示は、キャリアプランニング能力の向上を促進することに効果があることが示唆された。しかし、本研究では具体的に学習者が将来の夢や目標を決める機会には至らない可能性が示唆されたので、今後の課題として、長期間の実践に取り組み、その効果を明らかにしていくことが必要である。

KEY WORDS

キャリア教育、キャリアプランニング能力、絵本、読み聞かせ活動、小学校特別活動

1 問題の所在

文部科学省(2011)⁽¹⁾は産業・経済の構造的変化、雇用の多様化・流動化等が子どもたちの育つ社会環境の変化に加え、子どもたちの将来の捉え方にも変化をもたらしていると指摘している。また、内閣府(2003)⁽²⁾は社会状況や雇用状況の変化によって非正規労働者が大幅に増え、正規労働者として不採用の者は働く意欲を失っていると述べている。

このような状況の対策の一つとしてキャリア教育の推進が挙げられる。文部科学省(2005)⁽³⁾は「若者自立・挑戦戦略会議」で「若者自立・挑戦プラン」の取り組みを講じ、政府、地方自治体、教育界、産業界が一体となって取り組むことの重要性を述べた。その中でキャリア教育の推進が1つの柱として位置づけられた。このように、キャリア教育の推進は多方面から必要とされている。

キャリア教育について、中央教育審議会(2011)⁽⁴⁾は「1人1人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育」と定義している。本研究でもこの定義を採用する。

また、文部科学省(2008)⁽⁵⁾はキャリア教育を、小学校段階で行うことが望ましいと述べている。また、浅野ら(2009)⁽⁶⁾は「キャリア教育を推進する一連の動きのなかで強調されているのは、青年期のキャリア教育をより充実させるためにも、その前段階である児童期から自己の個性を理解し、主体的に進路を選択する能力・態度を育てることの重要性である」と述べている。加えて、三村(2008)⁽⁷⁾は小学校段階で進路を選択する能力・態度を育成することは重要であり、中学校、高校の教育への影響は非常に強いと述べている。このように小学校段階でのキャリア教育が必要とされている。

キャリア教育の問題点として、吉武ら(2011)⁽⁸⁾は「文部科学省が提起してきたこれまでの内容には、具体的な方策が乏しい」と述べている。さらに、児美川(2006)⁽⁹⁾は「キャリア教育の意味やねらいはわかったとしても、それを具体的には、学校の教育課程や日常の教育実践にどう落とし込んでいけばよいのかが分からないというのが最大の関門

*上越教育大学(初等教育教員養成課程) **長野県諏訪市立中州小学校 ***学校教育学系

である」と指摘している。このように学校現場では、具体的なキャリア教育の実践が求められる。

キャリア教育の基本的な枠組みとして、中央教育審議会(2011)⁽¹⁰⁾は「分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤である力」として基礎的・汎用的能力を挙げ、4つの要素に分けた。その中の1つに「キャリアプランニング能力」がある。キャリアプランニング能力とは文部科学省(2011)⁽¹¹⁾によると、「『キャリアプランニング能力』は、『働くこと』の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて『働くこと』を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力である」と定義している。本研究でもこの定義を採用し、キャリアプランニング能力に焦点化した研究を進める。

一方で、学校現場において使われる有効なツールとして、絵本が挙げられる。鈴木ら(2017)⁽¹²⁾は絵本が日常生活でイメージが難しい事柄を助ける働きがあることを示唆している。加えて、上原ら(2015)⁽¹³⁾は絵本が子供に発達の効果があることを明らかにした。これらのことから、絵本を読むことは教材としての役割を持つと言える。実際に絵本を活用した授業実践は様々な教科において行われている。例えば星野(2010)⁽¹⁴⁾は、小学校道徳科において、絵本とモラルスキルトレーニングを活用した授業展開をすることで道徳的心情・判断力・実践意欲と態度を養うことができることを明らかにした。また、城戸ら(2012)⁽¹⁵⁾は、小学2年生を対象に、絵本を用いた食育の授業を展開し、望ましい食態度と食に関する興味・関心を促すことができ、望ましい食行動を促す可能性を示唆した。このように、小学校段階においては、絵本の教育効果は高く、様々な場面での活用が期待されることが分かる。さらに、絵本には様々な登場人物や職業を題材にした内容が多く、児童たちに職業モデルの提示が期待できる。これらのことを踏まえると、前述したキャリアプランニング能力との関係性を想定することができる。

そして、キャリア教育の実践もこれまでに多くの実践事例がある。例えば坂本(2015)⁽¹⁶⁾は、デジタル・ストーリーテリング制作をキャリア教育として位置づけることに成功した。また、穂屋下ら(2017)⁽¹⁷⁾はパソコンや学習管理システムと協同学習を融合させ、キャリアデザインの要素を取り入れる試みを行い、将来設計や振り返りに役立たせた。これらのことから、様々なツールを用いたキャリア教育は有効であると言える。

このように、キャリア教育実践は様々なツールを用いて行うことができる。しかし、教育効果の高い絵本を用いたキャリアプランニング能力の効果を検証する実践事例は管見の限り見られない。このことから、絵本を活用した実践がキャリアプランニング能力にどのような効果があるのかを検証することに意義があると考えられる。

2 研究の目的

小学校特別活動において絵本を用いた職業モデル提示を目標とした授業を開発・実践し、キャリアプランニング能力に与える効果を検証することを目的とする。

3 研究の方法

3.1 調査の概要

3.1.1 調査対象

学習者：長野県A小学校第3学年(37名)。

授業者：教職経験5年の学級担任

研究対象の5時間すべての授業に出席した学習者(34名)のみを対象とした。また、調査対象を第3学年に設定した理由は文部科学省(2011)⁽¹⁸⁾が定めている学年別の発達課題を踏まえたねらいに「いろいろな職業や生き方があることがわかる」や「働くことの楽しさが分かる」があり、本実践と合致していると考えたからである。

3.1.2 調査時期

令和3年12月中旬の5日間

3.1.3 学習者の実態

学習者は週に1度、絵本の読み聞かせを図書館司書教諭から5分程度受けている。なお、学級担任は国語の教科書の範読以外で読み聞かせを行っていない。

3.1.4 授業の内容

本実践は終学活の時間を活用し、全体で10分の構成とした。最初の5分で読み聞かせを行い、残りの5分で問いか

けを行った。絵本の種類は3.1.5に示す。また、問いかけ内容は3.1.6に示す。

3. 1. 5 絵本の選択基準と使用した絵本の一覧

本実践で使用した絵本の選考基準は以下の2点を基に選考した。

- ①タイトルに1種類以上の現実に存在する職業が登場していること
- ②5分以内で読み聞かせできるページ数であること

使用した絵本の一覧は以下の表の通りである。(表1)。

表1 使用した絵本の一覧

| 順番 | タイトル | 著者 | 出版社 | 刊行年 | 登場する職業 |
|-----|----------------|----------------------|-------|------|--------|
| 1日目 | はやおきふっくらパン屋さん | 作 山本 省三 絵 はせがわ かの | 講談社 | 2010 | パン屋 |
| 2日目 | ペンキ屋さん | 作絵 あおき あさみ | 福音館書店 | 2013 | ペンキ屋 |
| 3日目 | もりのちいさなしたてやさん | 作絵 こみね ゆら | 風濤社 | 2017 | 仕立屋 |
| 4日目 | おとうさんはうんでんし | 作 平田 昌広 絵 鈴木 まもる | 佼成出版社 | 2012 | 電車の運転士 |
| 5日目 | どうぶつげんきにじゅういさん | 作 山本 省三 絵 はせがわ かの | 講談社 | 2011 | 獣医 |

3. 1. 6 問いかけ内容の詳細

本実践で問いかける内容は文部科学省(2011)⁽¹⁹⁾が定義しているキャリアプランニング能力と浜銀総合研究所(2015)⁽²⁰⁾が挙げているキャリアプランニング能力を測定する質問項目を基に作成した。作成にあたり、キャリアプランニング能力の定義を4要素に分けた(表2)。また、その要素ごとに1問ずつ問いかけ内容を作成し、その前後に活動の内容を問いかける質問とまとめの質問を作成した。これにより問いかけは6問で、上から順に行った(次頁表3)。

3. 1. 7 授業の様子

実践の流れは最初の5分間で授業者が学習者に向けて読み聞かせを行い、その後、残りの5分間で先に述べた問いかけ(全6問)を学習者に向けて問いかけた。5回の実践すべて同じ流れである。形態は前方に授業者、その前に学習者で実践を行った。詳しくは以下の図のとおりである(次頁図1)。

3. 1. 8 分析方法

分析1 実践内のプロトコル分析

分析2 インタビュー調査

分析3 質問紙調査

分析2のインタビュー調査の質問項目は、キャリアプランニング能力の定義と作成した質問紙(次頁表4)を参考に5問作成した(次頁表5)。また、インタビュー対象学習者は、質問紙の結果を基に上位群、下位群それぞれ1名ずつ抽出し、授業者がインタビューを行った。インタビュー形式は半構造化インタビューの手法で行った。

分析3の質問紙は、浜銀総合研究所(2015)⁽²¹⁾のキャリアプランニング能力を測定する質問項目を基に作成した。また、基にした質問紙は高校生を対象に作成されたものであるため、小学生用に文章を改編し、作成した。反応形式は「1:あてはまる」から「4:あてはまらない」までの4件法で回答を求めた。そして、一要因参加者内分散分析を行うに当たり、得点を反転させた。よって、「1:あてはまらない」から「4:あてはまる」の形式に修正し、分析を行った。また、分析1～3を行うに当たって、表2を参考に分析を行った。

表2 キャリアプランニング能力の定義を4要素に分割した項目

| |
|---|
| ① 「働くこと」の意義を理解する |
| ② 自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づける |
| ③ 多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する |
| ④ 自ら主体的に判断してキャリアを形成する |



図1 授業の様子

表3 問いかけ内容一覧

| 問いかけ（全6問） | 問いかけ内容 |
|---------------------------------------|--|
| 導入 | 登場人物を言ってみよう。 |
| 多様な生き方に関する情報を適切に取捨選択し、活用する | この絵本にはどんなお仕事が出てきましたか？ |
| 「働くこと」の意義を理解する | そのお仕事は誰の役に立っていますか？ また、どのように役に立っていますか？ |
| 自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置づける | この絵本の登場人物はお仕事を楽しいと思っていますか？ またそれはなぜですか？ |
| 自ら主体的に判断してキャリアを形成する | 絵本の中に出てくるお仕事をやる人になるにはどんなことを頑張ったらいいですか？ 家の時と学校の時をそれぞれ考えてみよう。 |
| まとめ | あなたは絵本の中に出てくるお仕事をしてみたいですか？ またそれはなぜですか？ |

表4 質問紙調査の質問項目一覧

| 質問項目 |
|--------------------------------|
| Q1 勉強する理由がわかる |
| Q2 働くこと理由がわかる |
| Q3 いろいろな仕事や暮らしの仕方があることがわかる |
| Q4 お仕事について知るためにどうやって調べればよいかわかる |
| Q5 将来の夢や目標が決まっている |
| Q6 将来の夢や目標のために頑張っている |

表5 インタビュー調査の質問項目

| インタビュー項目 |
|---|
| Q1 絵本の活動について感想を教えてください。 |
| Q2 読み聞かせを終えて、いろいろな仕事を知ることができましたか？また、その中でどの仕事をやりたいと思いましたか？理由も教えてください。 |
| Q3 読み聞かせを終えて、お仕事をすることについてあなたはどのように思いますか？ |
| Q4 読み聞かせを終えて、たくさんのお仕事が出てきました。あなたは何のために仕事をしたいと思いますか？ |
| Q5 読み聞かせを終えてやりたいお仕事に何か変化はありましたか？ また、その仕事になるために何かがんばろうとしていること、またはがんばっていることはありますか？ |

4 結果と考察

4. 1 分析 1 実践内のプロトコル分析

4. 1. 1 分析の目的と方法

本分析により、学習者が問いかけに対してどのように考え、意見を産出するのかを明らかにすることを目的とした。また、問いかけは授業者が問いかけに対して学習者の挙手を求め、挙手した学習者を無作為に抽出し、発表をさせる形式をとっており、全5回の実践はすべて同じ形式で行った。

4. 1. 2 分析の結果と考察

表6に実践1日目、表7に実践4日目のプロトコルを時系列に示す。

表6 実践1日目のプロトコル

※T：教師，A～D：学習者，数字：発話順

(前略)

T1：4，この絵本の登場人物はお仕事を楽しいと思っ
ていますか？また，それはなぜですか？はい，Aさんどうぞ。

A1：①パンを作るのとか，新しいのを考えるのが楽しいと思っ
ている。

T2：なるほどね。この絵本の登場人物はお仕事を楽しいと思っ
ていますか，また，それはなぜですか？Bさん。

B2：②はい，新しいパンをつくる，お父さんが新しいパンを作っ
て，地域の人とかお客さんとかに美味しいって喜ばし
たいから頑張ってつくって美味しいって言われて，嬉しい。

(中略)

T3：5，絵本の中に出てくるお仕事になるには，学校や家でどんなことを頑張ったら良いですか？じゃあCさん。

C1：③勉強とか調理実習とか。

T4：勉強とか調理実習とか，そうだね，食べ物を作ってるもんね，他にありますか？Dさん。

D1：スーパーマーケット見学とか社会見学とか。

T5：うん，あ，社会見学を頑張った方がいい，なるほど，それはどうしてそう思ったの？

D2：④社会見学で，パンを作る時の方法っていうか，だったり，値段の付け方だったり，そういうのを見れるから。

(後略)

(1) 実践1日目のプロトコル分析

4問目の問いかけに対して，下線部①，②より，学習者A，Bはパン屋として働くことの楽しさはパンを作ることに加え，パンを売り地域貢献することであると答えている。これより読み聞かせ活動によって仕事を多角的な視点から理解していることが推察される。つまり，学習者が，キャリアプランニング能力の要素の1つである「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野を働かせている様子が示唆されたと言える。

5問目の問いかけに対しては，下線部③，④より，学習者は「食材を取り扱う上で学ぶこと」と「商売を学ぶこと」の2点の努力すべき点を挙げている。これは，職業に就く上で必要な資質・能力は何か，読み聞かせ活動により獲得した知識を基に考えていることが読み取れる。つまり，下線部③，④からもキャリアプランニング能力の要素の1つである「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野を働かせている様子が推察された。

表7 実践4日目のプロトコル

※T：教師，A，G：学習者，数字：発話順

※（ ）表記は内容補足のための筆者による加筆

(前略)

T1：4，この絵本の登場人物はお仕事を楽しいと思っ
ていますか？またそれはなぜですか？Aさん。

A1：①みんなの役に立てるから楽しいと思っ
ているし，みんなの役に立てるからうれしいとか思っ
ているし，みんなに，
みんなが使えるように，整備とかも頑張ってやっ
て，うれしいなって思ってもらえる人が増えるから。

(中略)

T2：(質問6に対して)次はGさんが話すよ。

G1：おれはしたくない。

T3：お，ちょっと待って，反対の意見だ。面白そう。どうぞ。

G2：②え，したくない。その理由は，もし事故とかあつたら，事故とか起こしたときに，責任を取れないから。

(後略)

(2) 実践4日目のプロトコル分析

4問目の問いかけに対して学習者Aは下線部①から読み聞かせから他の人のために仕事をすることに楽しさを見出している姿が読み取れた。つまり、キャリアプランニング能力の要素である「働くことの意義を理解する」分野を働かせていることが推察される。

また、5問目の問いかけに対して学習者Gの下線部②から電車の運転士は命を預かる仕事のため、責任が重く、やりたくないと答えている。これは、電車の運転士は乗客の命を預かる仕事だという情報を絵本の読み聞かせから読み取っていることが推察される。よって、キャリアプランニング能力の1要素である「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野を働かせていることが推察される。

4. 1. 3 分析の考察

分析の結果、すべての実践において、学習者が1つの職業について絵本の中で取り扱っている情報やそれ以外の情報を読み取る姿も見られた。また、その職業の楽しさや意義を見出している姿も見られた。つまり、読み聞かせ活動によって「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」「働くことの意義を理解する」分野を働かせている姿が表出したと言える。

よって学習者にとって読み聞かせ活動は新しい職業モデルを獲得し、キャリアプランニング能力の向上を促す機会になったということが示唆された。

4. 2 インタビュー調査

4. 2. 1 分析の目的と方法

本分析では、実践後に学習者に対してインタビューを行い、発話をプロトコル分析することによって、読み聞かせ活動が、学習者にどのような影響を与えたかを明らかにすることを目的とした。

また、後述する分析3の質問紙調査の結果を参考に、上位群、下位群をそれぞれ1名ずつを無作為に抽出し、授業者がインタビューを行った。なお、学習者A、Bは分析1の学習者A、Bと同一人物である。インタビュー項目は5つ作成し、半構造化インタビューの手法を用いて行った。

4. 2. 2 分析の結果と考察

表8に学習者B、次頁表9に学習者Aのインタビューのプロトコルをそれぞれ示す。

表8 学習者Bへのインタビュー

※T：教師， B：学習者， 数字：発話順

(前略)

T1：3，読み聞かせを終えて、お仕事をすることについてあなたはどのように思いますか？

B1：①えっと、動物病院はその動物の命をわかって手術とか病気とか会話が、みたいにできるから僕もそういうことをやってみたいから動物病院をやってみたい。

(中略)

T2：じゃあ5，読み聞かせを終えてやりたいお仕事に何か変化はありましたか？

B2：やりたいお仕事に変化？

T3：前やりたかったお仕事と読み聞かせを聞いてからこれをやってみたいと思ったお仕事。

B3：②えっと、前はお父さんがやってた車の会社で働こうと思ったけど、動物病院で動物好きだからこれもやってみていなって思った。

(後略)

(1) 学習者Bのインタビュー分析

質問3に対して下線部①から、学習者Bは読み聞かせより獣医の仕事は、動物の治療に加えて、会話などの世話も仕事の一部であることを把握している姿が読み取れる。つまり、読み聞かせ活動にて職業に対して幅広い知識を獲得したことが示唆されたと言える。

また、質問5に対して、下線部②から、学習者Bは以前まで、自動車関係の仕事を希望していたが、読み聞かせ活動を終えて、新たに獣医を希望しているということが読み取れる。つまり、読み聞かせ活動によって学習者は新たな職業モデルを獲得し、将来希望する職業の選択肢が広がった可能性があることが示唆された。

よって、下線部①、②から読み聞かせ活動により、職業についての幅広い情報や楽しさを知ったことが読み取れる。つまり、キャリアプランニング能力の要素の1つである「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野において、向上の可能性があることが示唆された。

表9 学習者Aへのインタビュー

※T：教師，A：学習者，数字：発話順

(前略)

T1：じゃあ，5，読み聞かせを終えて，やりたいお仕事に何か変化はありましたか？

A1：①最初はパン屋とか火傷しそうで嫌だったけど，本を読んでから新しいパンとか作るの楽しそうだなって思ってやってみたくなった。

(中略)

T2：6，そのお仕事になるために何か頑張ろうとしていることまたは頑張っていることはありますか？

A2：②早くやることを終わらせる。家に帰ったらやることがいっぱいあるから，そのやることを早く終わらせて，粘土とかでやる練習をしたい。

(後略)

(1) 学習者Aのインタビュー分析

下線部①からは，読み聞かせ前では，パン屋について悪い印象を持っていたが，読み聞かせ活動でパン屋にはどのような仕事があるのか把握し，パン屋の仕事に興味を持った様子が読み取れる。つまり，キャリアプランニング能力の要素の1つである「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野において，働かせている姿が表出したと言える。

下線部②からは，学習者Aは，パン屋の仕事内容を読み聞かせから理解し，パン屋には「パン生地を作る技術」が必要だということ理解している姿が読み取れる。つまり，パン屋に必要な技術を読み聞かせから理解し，その上でその仕事のためにどのような努力が必要なのか考え，実行しようとしている。よって，キャリアプランニング能力の要素の「自らを主体的に判断してキャリアを形成する」分野において働かせている姿が表出したと言える。

4. 2. 3 分析の考察

分析の結果，インタビュー調査を行ったすべての学習者が読み聞かせ活動によって，キャリアプランニング能力の4要素の1つである「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」分野を働かせている姿が表出された。加えて，獲得した情報の中から楽しさを見出し，読み聞かせ活動で取り扱った職業を将来希望しているとみられる学習者もいた。また，中には獲得した情報から職業に必要な資質・能力は何かを自分なりに考え，行動しようとしている学習者も見られた。これは，読み聞かせ活動が，「自らを主体的に判断してキャリアを形成する」分野を働かせるきっかけになったと推察される。

よって，読み聞かせ活動によって学習者は新たな職業モデルを獲得し，キャリアプランニング能力を働かせ，向上させる機会になったことが推察される。

4. 3 分析3 質問紙調査

4. 3. 1 分析の目的

本分析は，絵本の読み聞かせ活動の前後にキャリアプランニング能力を測定する質問紙調査を実施し，事前と事後を比較することによって，絵本の読み聞かせ活動において効果が見られたのかを明らかにすることを目的とする。

4. 3. 2 分析の結果

質問紙（前頁表4）を用いて事前と事後の質問紙の回答の平均点を基に一要因参加者内の分散分析を行った結果，キャリアプランニング能力を基にした自作の質問紙調査の数値は5%水準で有意な向上が見られた ($F(1.34) = 45.47^{**}$, $p < 0.5$)。 (次頁表10)。

また，質問ごとの事前と事後の結果を基に一要因参加者内分散分析を行った結果，1問目から4問目までは，キャリアプランニング能力を基にした自作の質問紙調査の数値は，5%水準で有意な向上が見られた ($Q1 : F(1.34) = 7.87^{**}$, $p < 0.5$) ($Q2 : F(1.34) = 21.39^{**}$, $p < 0.5$) ($Q3 : F(1.34) = 14.25^{**}$, $p < 0.5$) ($Q4 : F(1.34) = 28.49^{**}$, $p < 0.5$)。しかし，5問目と6問目の，キャリアプランニング能力を基にした自作の質問紙調査の数値は，5%水準で有意な向上は見られなかった。 ($Q5 : F(1.34) = 2.21ns$, $p < 0.5$) ($Q6 : F(1.34) = 0.81ns$, $p < 0.5$) (次頁表10)。

4. 3. 3 分析の考察

キャリアプランニング能力を基にした自作の質問紙のQ1～4が数値として効果が見られた要因は，絵本の読み聞かせ活動内での問いかけ内容が質問紙のQ1～4と内容が似ており，活動内で質問紙の項目について考える機会があったということが推察される。加えて，質問内容が小学3年生にとって考えやすいものだったことも要因の1つであると推察される。

対して、キャリアプランニング能力を基にした自作の質問紙のQ5, 6が数値として有意な結果が見られなかった要因は、Q5, 6は将来について具体的な内容を問うものであり、小学3年生の発達段階には隔たりがあったことが示唆される。

Q1～6を通して、読み聞かせ活動では、学習者は働くことや勉強する意義を考え、多様な生き方に関する情報を獲得し、その上で情報を獲得する術を学んだということが示唆された。だが、読み聞かせ活動は具体的に将来の夢や目標を決定する活動にはなりにくかったことが推察できる。しかし、具体的に将来を考える際には様々な生き方や暮らし方、その情報を収集する力が必要であり、働くことや勉強することの意義を理解していないと将来の夢や目標を見つける意欲につながらない。よって、本研究で行った読み聞かせ活動は学習者が具体的に将来を考えるために必要な要素の獲得について効果があったことが推察された。

表10 自作のキャリアプランニング能力を測定する質問紙調査の質問ごとの平均得点と分散分析結果 (n=34)

| 観点 | 事前 | 事後 | F値 |
|----------------------------------|----------------|----------------|---------|
| Q1～6の合計得点平均 | 2.79 (0.69) | 3.25 (0.65) | 45.47** |
| Q1「勉強する理由がわかる」 | 3.02 (1.04) | 3.38 (0.87) | 7.87** |
| Q2「働くことの理由がわかる」 | 2.94 (0.93) | 3.50 (0.84) | 21.39** |
| Q3「いろいろなお仕事や暮らしの仕方がわかる」 | 2.82 (0.92) | 3.44 (0.88) | 14.25** |
| Q4「お仕事について知るためにどうやって調べればよいのかわかる」 | 2.00 (0.93) | 2.91 (0.91) | 28.49** |
| Q5「将来の夢や目標が決まっている」 | 2.94 (1.23) | 3.14 (1.08) | 2.21ns |
| Q6「将来の夢や目標のために頑張っている」 | 3.05 (0.96) | 3.14 (1.00) | 0.81ns |

()は標準偏差, + $p < .10$ * $p < .05$ ** $p < .01$

5 成果と課題

5. 1 研究の成果

本研究は、小学校特別活動において絵本の読み聞かせ活動がキャリアプランニング能力にどのような影響があるのか検証することを目的とした研究であった。そこで、今回の実践を通して示されたことは主に以下の3点である。

1つ目は、学習者が1つの職業について絵本の中で取り扱っている情報やそれ以外の情報を読み取る姿も見られた。また、その職業の楽しさや意義を見出している姿も見られた。よって、読み聞かせ活動によって「多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用する」「働くことの意義を理解する」分野を働かせている姿が表出した。

2つ目は、学習者が読み聞かせ活動によって獲得した情報から、絵本で取り扱った職業に必要な資質・能力は何かを自分なりに考え、行動しようとしている姿が見られた。これは、読み聞かせ活動が、「自らを主体的に判断してキャリアを形成する」分野を働かせるきっかけになったと推察できる。

3つ目は、キャリアプランニング能力を基に作成した自作の質問紙調査の数値で、有意な向上が見られた。

以上のことから、職業モデルが提示された絵本の読み聞かせ活動は、キャリアプランニング能力の向上を促すことに効果があることが示唆された。

5. 2 今後の課題

本研究の課題として、5回という短期間の実践だったので、長期的な活動による効果は解明されていないことが挙げられる。これについては、キャリアプランニング能力は長期的な実践で身につくと考えられるので、長期的な活動がより高い効果を生むことが期待される。また、本研究は小学校中学年対象であり、他学年での効果が明らかになっていない。よって、学年を変えての実践が期待される。

引用及び参考文献

- (1) 文部科学省：「キャリア教育の手引き キャリア教育の必要性と意義」, 2011, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2011/06/16/1306818_04.pdf, (2022.1.22閲覧).
- (2) 内閣府：「平成15年版国民生活白書」, 2003, <https://warp.da.ndl.go.jp/infondljp/pid/9990748/www5.cao.go.jp/seikatsu/whitepaper/h15/youshi/2syoun.pdf>, (2022.1.26閲覧).
- (3) 文部科学省：「若者自立・挑戦プラン」(キャリア総合計画)の推進, 2005, https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/wakamono/, (2022.1.23閲覧).
- (4) 中央教育審議会：「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について 答申」, 2011, https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf, (2022.1.23閲覧).
- (5) 文部科学省：「教育振興計画」, 2008, https://www.mext.go.jp/a_menu/keikaku/pamphlet/08100704.htm, (2022.1.23閲覧).
- (6) 浅野信彦・伊藤友美：小学校におけるキャリア教育の現状と課題 実践からの示唆, 文教大学教育学部紀要, 第43巻, pp.13-23, 文教大学教育学部, 2009.
- (7) 三村隆男：新学習指導要領準拠小学校キャリア教育実践講座, pp.11-12, 日本進路指導協会, 2008.
- (8) 吉武聡一・西川久子：小学校におけるキャリア教育の推進に関する動向と実践上の課題, 福岡教育大学紀要, 第60巻, pp.191-202, 福岡教育大学, 2011.
- (9) 児美川孝一郎：日本における「キャリア教育」実践の展開(1)小学校におけるキャリア教育をどう進めるか, 生涯学習とキャリアデザイン=生涯学習とキャリアデザイン, 第3巻, pp.49-66, 法政大学キャリアデザイン学会, 2006.
- (10) 前掲書(4)
- (11) 前掲書(1)
- (12) 鈴木千春・永田智子：学校教育における教材としての絵本活用の意義と可能性, 兵庫教育大学学校教育研究, 第30巻, pp.159-165, 兵庫教育大学, 2017.
- (13) 上原宏・馬場瑞穂・宇津呂武仁：発達心理学の観点から見た絵本レビュー中の子供の反応の分析, 言語処理学会第21回年次大会発表論文集, pp.832-835, 言語処理学会, 2015.
- (14) 星野祐樹：「道徳的实践量を高める授業展開」-絵本とモラルスキルトレーニングを活用した学習指導の有効性-, 教育実践研究, 第20巻, pp.199-204, 上越教育大学学校教育研究センター, 2010.
- (15) 城戸杏奈・高村仁知・上田由喜子：小学2年生に対する絵本を用いた食育の有効性-食知識と食態度に着目して-, 栄養学雑誌, 第70巻, 第4号, pp.236-243, 日本栄養改善学会, 2012.
- (16) 坂本旬：初年次におけるデジタル・ストーリーテリングを用いたキャリア教育実践, 法政大学キャリアデザイン学会=生涯学習とキャリアデザイン, 第12巻, 第2号, pp.3-11, 法政大学キャリアデザイン学会, 2015.
- (17) 穂屋下茂・丹野駿：LMSを用いたキャリア教育実践の研究, 佐賀大学教育実践研究, 第36巻, pp.69-76, 佐賀大学, 2017.
- (18) 文部科学省：「キャリア教育の手引き 中学年の発達課題と実践のポイント(その1)」, 2011, https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/afieldfile/2012/05/17/1320716_04.pdf, (2022.1.24閲覧).
- (19) 前掲書(1)
- (20) 浜銀総合研究所：「文部科学省委託調査 高等学校普通科におけるキャリア教育の実践と生徒の変容の相関関係に関する研究調査」, 2015, http://souken.shingakunet.com/career_g/2017/02/2017_cg416_dl01.pdf, (2022.1.23閲覧).
- (21) 前掲書(20)

Effects of Career Planning to Read Picture Books in a Special Activity in Elementary School

Yuji IGARASHI* · Takehiko MATSUZAWA** · Norihisa SAKAKIBARA***

ABSTRACT

In this study, we developed and implemented a lesson to present a jobs model using picture books in special activities with elementary school students. We examined how this presentation affected career planning, a basic and general-purpose ability. The picture book was read aloud for 5 min. Learners were given six questions about the material. The following three effects were identified. First, the learners acquired much information from the picture book. They thought about themselves using the information obtained from the book. Finally, they acquired information from the book. Second, the learners thought about the qualities and abilities necessary for jobs based on the information obtained from the activities. Some learners attempted to perform it themselves. Third, significant improvements were seen in a self-made questionnaire measuring career planning ability. Therefore, learners may be able to acquire a wide range of knowledge on jobs. In addition, it was an opportunity to form an independent career. Therefore, this study is effective in promoting the improvement of career planning. However, this study did not find that this approach could allow learners to set future goals. Future work should extend the survey period and clarify the effects of practice.